

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

- 第16回東京国際ブックフェア……………1
- 理事会／海外ニュース／事務局から ……2
- eBook ビジネスの展望とその将来／
2009 サマーパーティー ……3
- 会報通巻 500 号記念座談会 ……4
- 委員会報告 ……5

第16回東京国際ブックフェア

去る7月9日（木）～12日（日）の4日間第16回東京国際ブックフェアが前年同様ビッグサイト西館で開かれました。今年も会期中の来場者数が昨年を3,500人程度上回り約65,000人、出展社数も29カ国776社でいずれも過去最高との発表がありました。

今年特徴的だったのが5つのゾーン（生活・趣味・実用書／読書グッズ／学術情報データベース／雑誌向けデジタル活用支援／パーソナルブック）を新しく設け、各ゾーンに関心を持つ書店、読者が多数来場した事です。

また、基調講演・読者推進セミナーに大物作家が登場し、こちらにも多くの出版関係者・読者が集まりました。

今回は大規模なブースを出している出版社が減少し、出版不況の感がありましたが、今年のテーマ国であるエジプト・アラブ共和国やスペインが大パビリオンを展開するなど、昨年より海外出版社の出展が目立った様に思います。

その中でもひと際目を引いたのが、電子出版に関連

した展示を行う“デジタルパブリッシングフェア”や出版のデジタル活用を支援するソリューションを紹介するブースで、どの出版社も大変賑わっており、昨年よりも増して出版のデジタル化・電子化が進んでいる感じがしました。

さて協会主催のバーゲンコーナーですが、このような出版社が増えた為、昨年よりさらにワゴン数の割り当てが10%減少し、今年はバーゲンコーナーの位置も会場の端になり、長細いレイアウトに変更されました。その為、同カテゴリーを扱う会社が集中する様に割り振りしなければならず、各社のロケーションには苦勞しました。その甲斐があつてか、総売り上げは前年を2.5%弱下回っただけで2日目と最終日は前年を上回る金額でした。円高の影響で昨年より更にバーゲン価格を下げた出展社もある中で、この成果は2009TIBFバーゲンを支えてくれた全ての方々の努力によるものと感謝しております。

皆様、本当にご苦勞様でした。

(UPS H.T.記)



日時：2009年7月2日（木）

1. 委員会構成

- ・総務委員会（担当：長谷川・ユサコ）
 - ・広報・渉外グループ（担当：グレッシャム・UPS）
 - ・文化・厚生・教育グループ（担当：仲・雄松堂）
 - ・会報・HP・ダイレクトリー委員会（担当：藤村・丸善）
 - ・事業委員会（担当：尾木・日貿）
 - ・レクリエーション委員会（担当：鶴・東亜ブック）
- 以上の理事長案は全会一致で承認された。

2. 推薦理事について

小松崎氏（絵本の家）に先期に引き続きお願いすることとした。

3. サマーパーティー前のセミナーについて

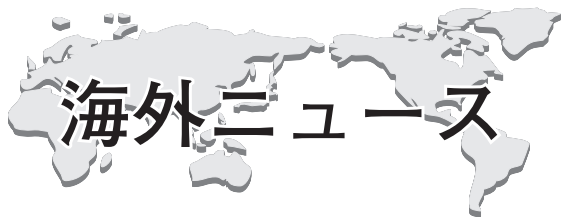
E-book をテーマにした講演会を行う。すでに事務局から案内が送付されている。

4. 関西パーティー

9月25日に行う。会場は総務委員長、事務局で手配する。パーティーの前に各出版社のプレゼンを検討する。

5. 理事長から

- ・7月に関西の現・旧会員を訪問する予定。
- ・出版社レブを集めた懇親会を行う。
- ・理事会+希望者でKBIAの訪問を行いたい。
- ・洋書輸入の歴史を各社の視点でまとめた。
- ・2011年の協会創立70周年記念行事の準備を始めたい。



◆ ソニーの電子ブック・リーダー、グーグル電子図書館を利用

7月29日、ソニー（Sony Crop.）は、著作権切れの古典書籍をデジタル化するグーグル（Google Inc.）のプロジェクトを使って、百万以上の著作権フリー書籍を自社の電子ブックリーダーで提供すると発表した。

ソニー以外にも、Amazon.com、Barnes & Noble などが、成長する電子ブック市場（手帳型の端末に書籍データを保存し、読むことができる）での覇権を獲得しようとのぎをけずっている。

コスト面および技術面での問題から、全面的に市場に受け入れられる状況にはなっていないが、これらの企業は、将来獲得するであろう大きな収益を見込んで、市場での確かな足がかりを模索している。

ソニーは、グーグルの電子図書館プロジェクトを加えることで、最大量かつ総合的な電子ブックのラインナップを入手したとしている。

先週、アメリカ最大の書店チェーンである Barnes & Noble が、70万以上の電子ブックを擁する世界最大規模のオンライン書店を開設したが、そのうち50万以上がグーグルから得た著作権切れのタイトルである。

Amazon.com のキンドル（Kindle）ストアは30万タイトルを有しているが、グーグル電子図書館のタイトルを加えるかどうかについてはコメントしていない。

2009/07/29 <http://www.canada.com>

（ニュース提供：丸善海外仕入部）

事務局から

会員代表者変更

（株）雄松堂書店

新代表者 仲 光男（取締役社長）
（新田満夫氏から交代）

関西懇親パーティー

2年ぶりに開催致します。万障お繰り合わせの上、ご出席いただければ幸いです。

日時：9月25日（金）

午後4時～5時30分 商品説明会

午後6時～8時 懇親パーティー
（5時半受付開始）

場所：大阪第一ホテル6階＜マーキス＞
大阪市北区梅田1-9-20
TEL 06-6346-0007

会費：一人4000円（会員以外は7000円）

お申し込みは事務局まで。

eBook ビジネスの 展望とその将来

7月17日（金曜日）JAIP 総務委員会の主催により、日本外国特派員協会（プレスクラブ）にて標記テーマのもとセミナー（講演会）を開催しました。

紙面の都合もあり、以下両氏が使用されたスライドのアジェンダをもって公演のサマリーを紹介させていただきます。

先ず、ジェフエリー シーシャン氏（Jeffrey Cichon, President, Expansion Partners 社、米国、）により「米国における eBook の現状」と題し、この分野で先行する米国の現状と分析が発表されました。氏の発表した要旨は次の通りです。①出版業界の市場動向、②E-Contents の市場、③eBook/eReader の市場動向、④市場とデバイス、⑤市場参入企業例、⑥出版社のビジネスチャンス、⑦ebrary 社のサービス、⑧成功例

次いで増田豊氏（ユサコ株式会社取締役）により「国内（日本）の eBook の現状」について発表がなされました。氏の発表要旨は次の通りです。①国内の



eBook についての調査研究レポートの紹介、②仕様（媒体、デバイス）、③市場動向…個人、④市場動向…ビッグユーザーである大学における動向、⑤市場動向…公共図書館の例として千代田区立図書館の取り組み、等々です。

質疑応答も活発におこなわれ盛況のうちに閉幕致しました。今回は総勢 55 名という多数の方に受講して頂きました。JAIP では今後とも会員の皆様のニーズ合ったセミナーや見学会を企画してまいります。また、ご希望のテーマ等ございましたら事務局にご一報をお願いいたします。

2009 サマーパーティー

今年のサマーパーティーは7月17日（金）に恒例の日本外国特派員協会（プレスクラブ）にて 39 社 179 名の参加で盛大に行われました。

今回もサマーパーティーに先立ち、「E ブックビジネスの展望とその将来」と題してセミナーとデモンストレーションを行いました。米国における e-book の現状についてジェフエリー シーシャン氏（出版コンサルタント：米国）より、日本における e-book の現状について増田 豊氏（ユサコ株式会社 取締役）より講演をいただきました。

大変興味深い内容で多数のご参加いただき大盛況でした。

パーティーの方は今年も開宴前から大勢の方々がお越しになりウェルカムドリンクで賑やかな中、6 時過ぎに開宴となりました。

文化厚生委員長改めレクリエーション委員長 東亜ブック 鶴氏による開会の挨拶で始まり、協会新理事長 ユサコ株式会社 会長 山川氏より新理事会につ



いての紹介、役割などについてのスピーチをいただき、乾杯のご発声で開宴となりました。

前回同様パーティーの間のスピーチは一切せず最後まで会食・歓談の時間でパーティーは閉宴となりましたが皆さんまだまだお話が尽きない様で大勢の方が時間までお酒と食事を楽しみながらご歓談されたようでした。

今後も皆様楽しんでいただけるサマーパーティーが開催できるよう文化厚生改めレクリエーション委員一同で頑張ります。

次回も多数のご参加お待ちしております。

（東亜ブック 鶴 竜次 記）

会報通巻 500 号記念座談会

出席者（敬称略）

平岩 寧（現副委員長）

野村知成（元編集委員）

神田俊二（元事務局長）

高橋 紘（前事務局長）

栗原七男（前委員長）

藤村裕二（現委員長）（司会）

正田 実（現事務局長）（書記）



写真左から野村、神田、平岩、藤村、高橋、栗原の各氏

司会：暑い中、お集まりいただきありがとうございます。会報が今年の8月号で記念すべき500号になります。

これまで会報の編集に携わってこられた諸先輩方にお集まりいただき、昔を振り返りながら、今後のご提案を頂きたいと思います。

まずは皆さんの自己紹介をかねて昔の苦勞話、印象的だったことなどをお聞かせ下さい。

平：私は現役の委員ですが、いつから入ったかわからない。気が付いたら入っていたという感じです。印象に残っているのは、会社紹介の記事の連載が始まり、名簿で先頭の私の会社が最初にインタビューを受けました。（注1）そんなことから委員になったような気がします。相良さん、一條さんが委員長で事務所が藍沢ビルの頃かと思います。

いつ頃から始まったかは分かりませんが、旅行会と会議後の情報交換会（飲み会）が印象に残っています。最初の頃は編集会議で書評を書いたりする宿題ができてしまった。

高：そのころの委員の方はかなり勉強もされたようです。

野：私も何回か書評を書きました。店の棚を見ながらよさそうな本を探して。また次回までにどこの会社の紹介文を取材してこいなどと言われたこともあり。苦勞と言えばなかなか皆さん原稿を書いてくれない、当てにしていた記事が集まらないなど。編集会議のあとの飲み会はフランクフルトで呑み癖の付いた相良さんが始めたようです。

高：相良さんの協会史はいつ頃から始まったのでしょうか。（注2）連載があると編集も助かります。またいつ頃掲載が終了したのでしょうか。その後鈴木

さんの連載につながるわけですが。

平：協会史が現代に近づくにつれ、だんだん内容が生々しくなって、公取に指摘された談合問題も出てきたのを契機に、会報が発行された時期までで終了されたようです。

司会：連載が会報発行の助けになっていたようですが、会報は現在、年6回の発行になっています。これは原稿が集まりにくいのも一つの理由になっています。逆に言うと連載が始まると助かるということですが。

今、栗原さんに連載をお願いしていますが、依頼する立場から、書く立場に変わられていかがですか。

栗：連載と言っても不定期ですが。会報委員会で纏め役を始めたのは2000年頃だったと思います。

その間の話では、連載もありましたが原稿が多いときはすごく多く、どれを次回へ回すとかか贅沢な悩みもありましたが、無いときは全然無く、ページを埋めるのに苦勞しました。毎月定期的に発行するのに原稿量が不安定なのはやはり大変です。私のころからあまり大きな話題が無くなってきた時代かと思います。せいぜいAmazonの台頭とか。ですから必然的に連載+行事といったパターンになってしまいます。後は投稿ですが、当時皆さんにお願いしていたので、卒業して、少しは穴埋めになるかと思って書いていますが、あまり同じようなテーマでは嫌がられるので別の視点であと2回分くらい用意しようと思っています。

司会：投稿を依頼するのではなく、会員からの掲載依

頼はありましたか。

衆：それは無かったようです。ただホームページ委員会からサイト掲載分の提供を受けて載せたことは何回かありました。

正：サイトは常に更新され古い記事は無くなりますので、アーカイブの意味で重要な記事は会報に転載するのが必要かと思います。

司会：原稿集めと一つの号をまとめ上げるのにその時々ご苦労されたようですが、実際今も苦労していますが、印刷会社とのやりとりはどうだったのでしょうか。

神：連載の話に戻りますが、鈴木さんに毎月原稿をお願いしていたのですが、鈴木さんは几帳面な方で毎月締めきり以前に頂いておりました。それ以外にも原稿はふんだんにあり、その面で悩んだことはありませんでした。

司会：もう一つ大変なのは広告集めですが、高橋さんの頃はどうかしていましたか。

高：これは向こうから載せてくれと来るわけではないので、理事会社を中心に大体の候補と順番を決めておき、その都度お願いしました。当時は皆さん、快く応じてくれましたので広告でそれほど苦労した記憶はありません。

司会：先ほども触れましたが今年から年6回の発行ですが、収入を減らすわけにいかないのので広告は毎月2本入れています。洋販と年2回出してくれた医学書院が抜けてその辺は正田さんどうですか。

正：今まで衆原さんが作ってくれた土台が有るのでそれに従って順番を追っていますが、どうしても足りないときはダイレクトリーの広告に出稿いただいた会員以外の方をお願いする場合と、年1回だった社に2回お願いしたりしています。尤も「広告じゃなくて寄付しろ」と言われたりしていますが。

衆：私の前には杉山さんがやられていたかと思いますが、当時は連載がかなりあったようですので、安定して発行ができたようです。私の時代に鈴木さんが亡くなられたり、宇田川さんの連載が終了したり、連載が無くなった時期がありました。ちょうどUPSの齋藤さんのお辞めになり、業界に付いての原稿を依頼したところ、快諾を頂きました。おかげでしばらく繋がりました。連載がない時は何かこうした連載に近い物を用意しないと、記事だけで埋めるのは難しいでしょう。

尾内さんが書かれた雑誌関連の記事のようにサイトに先に掲載されてからこちらに載せた例もありました。

司会：今までご苦労されたお話を聞いてまいりましたが、そのご苦労の上に500号があるわけですがご感想をお聞かせ下さい。

高：今は会報の編集は電子的にやっているのですか？ 神田さんもそうですが私の時も編集は切り張りでした。一旦印刷会社が原稿を印刷した物を切ってレイアウトするのですが、時には一行ずつなんて時もありました。また締めきりが迫ると会議テーブルが作業場になってしまう。特に写真は大変でした。しかし大変な手間を掛けて苦労はしましたが作っているという感慨はありました。

野：その前は私や平岩さんしか経験していないかと思いますが、毎回担当が手書きの生原稿を校正、レイアウトして事務局へ持参していました。

平：その原稿を印刷会社に渡してできあがった印刷物と生原稿をつき合わせて校正し、また印刷会社へと、何回も繰り返すのです。FAXも無い時代でしたから足で稼いでいました。

司会：外から見ると会報委員会は年中飲んで、旅行をしてと思われていますが、どのような経過からですか。

平：旅行は協会の東西合同懇親旅行会の翌日、朝解散後自由行動になり、何人かでどこか行こうとレンタカーを借りて丹後半島を回ったのが最初かと思います。それに味をしめて委員会で行くようになったようです。時期的には雑誌のリニューアルが終り、更に各社の社内旅行が終わった晩秋に行きました。

野：一度11月に日光に行ったのですが、雪になってしまっただけが越えられない。念のために持っていたチェーンがあって助かりました。

高：会報委員会は解放委員会と他の委員会はこれほど個々の付き合いが深くないように思えます。綿々と続いてきた会報と、制作スタッフの繋がりが委員会を支えているように思えます。委員会というと堅苦しいですがこういった雰囲気は他の委員会でも生まれれば協会自体も変わってくるような気がします。

衆：旅行や飲み会の場では先輩達は決して制作に関して口出しはしないが雰囲気を伝えるといった伝統を感じます。

司会：協会全体で見ると会員が減ったりと元気の無い状況です。外から見た協会と今後の方向性などいかがでしょうか。

衆：この業界に限らず厳しい状況に置かれているが、そういう時代だからこそ結束が必要。出来る範囲での情報交換と懇親の場があれば協会の存在価値はあると思います。その情報交換の一つが会報ではないでしょうか。

司会：会報が会員の繋がりツールとなっているわけですね。

平：会報の Web 化が言われているが会報に限らず商品の電子化も進んでいる。しかし大量に動く物はそれでも良いが専門的な、特に本は残るような気がします。

司会：会報の電子化の話ですが、例えばダイレクトリーは紙の媒体と同じ物が Web で提供されている。尤もダイレクトリーは広告収入があるので紙は止められませんが。会報も制作、配布コストが言われていますが。

高：私は古い人間ですから、PC を立ち上げてそれからネットに繋いでという作業をするよりは目の前の紙を取り上げる方が早い遙かに楽です。印刷文化の一旦を担っているわけですから無くすという事は考えられません。ただコンテンツが重要で、皆が見たくなるようなものであれば媒体はどうでもよいと思います。

時代的には今が分かれ道ですね。個人的には紙が続いて欲しいのですが。

司会：専門書も電子化が進んでいますが、ユーザに聞

いてみるとざっと見るのは Web で、じっくり読むのは紙でと使い分けているようです。次元が違うのかもしれませんが、会報も同じように思います。

平：手書きの原稿から電子原稿になり、電子原稿は他の人が自由に手を加えられる点が不安です。何かの形で初稿を残していく事が必要だと思います。

正：Web と紙では明らかに情報量が違うので、どちらにするというのではなく、使い分ければ良いと思います。新聞とテレビのように。例えば、ホームページにはイベント、同好会行事を掲載しています。会報でも取り上げていますが、写真は 1 枚がやっとです。HP には制限はありませんから 10 ～ 20 枚と載せています。また紙の会報が配られてそういう会があったな。自分も参加したから HP を見てみようかと言う気になります。きっかけがなければなかなか HP は見ません。あとは前にも言われていました保存です。HP は更新されますから残りませんが、紙なら容易です。

司会：まとめが出ましたところで時間も参りましたので終わりとさせていただきます。本日頂いた貴重なお話を会報のみならず、協会の発展の参考にさせていただきます。お暑い中、ありがとうございました。

注 1：会報第 2 号に掲載

注 2：1985, Vol. 19, No. 9 ～ 1996, Vol. 30, No. 10 の 109 回連載

委員会報告 <文化厚生委員会>

第 57 回 麻雀大会

上位の成績は下記の通りです。

順位	氏名(社名)	1 回戦	2 回戦	3 回戦	合計
優勝	尾崎 (エイビス)	52	28	- 19	61
準優勝	中村 (OUP)	- 12	31	27	46
3 位	西野 (三友社)	- 11	31	10	30
4 位	鶴 (竜) (東亜)	- 2	- 2	27	23
5 位	唐澤 (ゲーテ)	38	- 2	- 18	18
☆役満	大三元 尾崎 (エイビス)				

2009 年 6 月 4 日 (金) シルク (高田馬場) にて
参加者 12 名 参加社数 8 社



次回 (第 58 回) の開催は 2010 年 2 月の予定です。
皆様のご参加お待ちしております。

祝 会報通巻 500 号

日本に洋書を世界から

Books e-Books Online



A Cambridge University Press company

United Publishers Services Limited

〒140-0002 東京都品川区東品川 1-32-5

Phone (03)5479-7251 Fax (03)5479-7282



CAMBRIDGE
UNIVERSITY PRESS

1584 • 2009

425 YEARS OF CAMBRIDGE
PRINTING AND PUBLISHING

株式会社 Cambridge University Press Japan

東京都千代田区神田錦町 1-10-1 サクラビル 1 階

TEL: 03-3295-5875 / FAX: 03-3219-7182

Books on Enduring Scholarly value
CAMBRIDGE LIBRARY COLLECTION

祝 会報通巻 500 号



アカデミア・ミュージック 株式会社

代表取締役会長 平岩 寧

〒113-0033

東京都文京区本郷 1-28-21 第2 荒井ビル

<http://www.academia-music.com>

ドイツ語圏の書籍、DVD、
ゲーティングカード等輸入販売

株式会社 ゲーテ書房

〒107-0062

東京都港区南青山 2-5-9-1F

Tel: 03-5771-6511 Fax: 03-5771-6512

<http://www.goethebook.co.jp>

Ehon House Publishing Inc.

株式会社 絵本の家

代表取締役 小松崎 敬子

〒171-0031

東京都豊島区目白 1-7-14 目白久保ビル

e-mail ehon@ehon-house.co.jp

K LINE LOGISTICS

ケイラインロジスティクス株式会社

代表取締役社長 勝瑞 護

〒108-0023

東京都港区芝浦 3-7-9

Tel: 03-3455-2801 Fax: 03-3455-2805

<http://www.klinelogistics.com>



センゲージラーニング 株式会社

代表取締役 松村 達生

〒102-0073

千代田区九段北 1-11-11 第2 フナトビル 5F

e-mail Asia.infojapan@cengage.com



株式会社 極東書店

代表取締役社長 相澤 久俊

〒101-8672

東京都千代田区神田神保町 2-12 安富ビル

e-mail febimp@kyokuto-bk.co.jp

株式会社 教文館

代表取締役社長 渡部 満

〒104-0061

東京都中央区銀座 4-5-1

e-mail fbooks@kyobunkwan.co.jp

取扱出版社：

Wadsworth Group (Wadsworth, Brook/Cole, Duxbury, Heinle, etc.), South-Western Group (South-Western College Pub., West Legal Studies, etc.), Delmar Learning (Autodesk Press, OnWord Press, Singular, etc.), Course Technology, Gale Group

祝 会 報 通 巻 500 号



株式会社 マクミランランゲージハウス

代表取締役 小野 春夫

〒162-0843
東京都新宿区市谷田町 2-37 千代田ビル
e-mail h.ono@mlh.co.jp



オックスフォード大学出版局 株式会社

代表取締役社長 ポール・ライリー

〒108-8386
東京都港区芝 4-5-10 カーニープレイス芝 8 F
Tel 03-5444-5454



株式会社 マイブックサービス

代表取締役 村上 正樹

〒101-0064
東京都千代田区猿楽町 2-5-8 葵ビル
e-mail order@mybookservice.co.jp



日本出版貿易 株式会社

代表取締役社長 大野 利夫

〒101-0064
東京都千代田区猿楽町 1-2-1



株式会社 マテマティカ

代表取締役 福本 理

〒113-0034
東京都文京区湯島 4-1-22
Tel 03-3816-3724
e-mail math@mathematica-inc.com



株式会社 ピアソン・エデュケーション

代表取締役社長 ブレンダン・デラハンティ

〒166-0003
東京都杉並区高円寺南 2-44-5
Tel: 03-5929-6151 Fax: 03-3314-0490



株式会社 南江堂

代表取締役社長 小立 鉦彦

〒113-8410
東京都文京区本郷 3-42-6
e-mail nkdyosho@nankodo.co.jp



株式会社 三友社

代表取締役社長 西野 久雄

〒162-0811
東京都新宿区水道町 1-13
e-mail mail@sanyusya.com

祝 会報通巻 500 号



株式会社 サンメディア

代表取締役社長 山下 志信

〒164-0012
東京都中野区本町 3-10-3
e-mail welcome@sunmedia.co.jp



学術雑誌バックナンバー輸出入販売

株式会社 東亜ブック

代表取締役 鶴 三郎

〒171-0014
東京都豊島区池袋 4-13-4
e-mail st@toabook.com



株式会社 至成堂書店

〒603-8149
京都市北区小山南上総町 55
Tel 075-431-2345
e-mail shiseido@jd5.so-net.ne.jp



ユサコ 株式会社

代表取締役 山川 真一

〒106-0044
東京都港区東麻布 2 丁目 17-12
e-mail usaco@usaco.co.jp



伸興通商 株式会社

〒160-0011
東京都新宿区若葉 1-7-1
e-mail shinko@shinkotsusho.jp
<http://www.shinkotsusho.jp>



株式会社 雄松堂書店

代表取締役会長 新田 満夫

〒160-0008
東京都新宿区三栄町 29
e-mail intl@yushodo.co.jp



大洋交易 株式会社

代表取締役社長 和田 茂

〒150-0002
東京都渋谷区渋谷 2-12-12 三貴ビル
e-mail infopro@next-eye.net



株式会社 雄松堂書店

取締役社長 仲 光男

〒160-0008
東京都新宿区三栄町 29
e-mail intl@yushodo.co.jp



**AMERICAN COLLEGE
of SPORTS MEDICINE®**
www.acsm.org

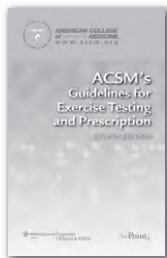
ACSM (アメリカスポーツ医学会) は、スポーツ医学／運動科学に関する世界最大の学会です。20,000 人を超す世界各国のメンバーで構成され、同分野の科学的研究の成果を、教育や実践に結びつけ役立てるべく貢献しています。Lippincott Williams & Wilkins は多くの ACSM 著作物の出版を長年にわたり担当しています。

**ACSM 運動処方指針：
運動負荷試験と運動プログラム**

NEW

**ACSM's Guidelines for
Exercise Testing
and Prescription
8th edition**

380 pp. 22illus. 2010
ISBN 978-0-7817-7155-9 ¥5,775



■スポーツ医学、運動科学、健康とフィットネスの分野において、世界中で最も広く使用されているゴールド・スタンダード・テキスト、改訂第8版。健康な人及び疾患をもつ人に対する運動負荷試験や運動処方の推奨方法を簡潔にまとめ、ACSMのあらゆる資格取得の志望者が習得すべき知識、技術、能力を一度に参照できる、便利なリソースとなっている。新版は多くの分野の世界的な専門家によって執筆され、米国健康福祉省(HHS)による身体活動に関する最新ガイドラインや、研究に基づく最新の推奨事項に適合している。

■本書専用の教科書採用者向けウェブサイトでは、テスト作成プログラム、画像集、パワーポイントのスライド、及びWebCT/BlackBoard用のコースカートリッジを、また、本書購入者全員が閲覧できる学生向けのウェブサイトでは検索機能付きの本編全文を、オンラインで無料提供する。

**ACSM's Resource Manual for
Guidelines for Exercise Testing
and Prescription, 6th edition**

NEW

868 pp. 325 illus. 2010 ISBN 978-0-7817-6901-3 ¥9,429

**ACSM's Exercise is Medicine™
-A Clinician's Guide to Exercise Prescription-**

NEW

262 pp. 27illus. 2009 ISBN 978-1-58255-739-7 ¥7,602

**ACSM's Certification Review
3rd edition**

NEW

308 pp. 110 illus. 2010 ISBN 978-0-7817-6901-3 ¥6,079

**ACSM's Health-Related Physical
Fitness Assessment Manual, 3rd edition**

NEW

172 pp. 52 illus. 2010 ISBN 978-0-7817-9771-9 ¥6,835

**ACSM's Resources for Clinical
Exercise Physiology, 2nd edition
-Musculoskeletal, Neuromuscular, Neoplastic,
Immunologic and Hematologic Conditions-**

NEW

323 pp. 20 illus. 2010 ISBN 978-0-7817-6870-2 ¥8,602

**ACSM's Metabolic Calculations
Handbook**

111 pp. 2007 ISBN 978-0-7817-4238-2 ¥4,704

**ACSM's Resources for the Personal
Trainer, 2nd edition**

547 pp. 251 illus. 2007 ISBN 978-0-7817-9053-6 ¥8,662

ACSM's Advanced Exercise Physiology

704 pp. 300 illus. 2006 ISBN 978-0-7817-4726-4 ¥16,275

ACSM's Primary Care Sports Medicine

656 pp. 600illus. 2007 ISBN 978-0-7817-7028-6 ¥22,680

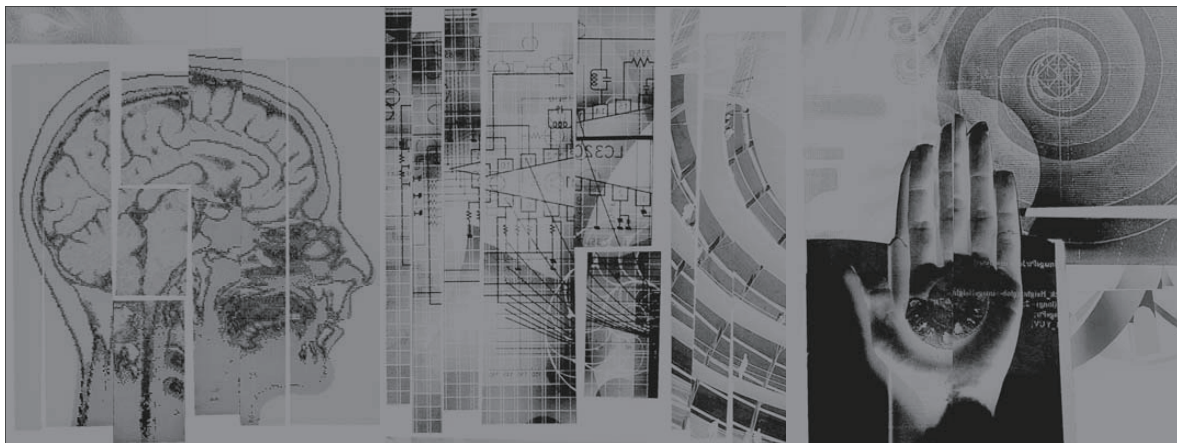
*価格は予告なく変更することがあります



Lippincott
Williams & Wilkins

ウォルターズ・クルワー・ヘルス・ジャパン

〒113-0033 東京都文京区本郷3-23-14
TEL: 03-5689-5400 FAX: 03-5689-5402
e-mail: tmurayama@wkhjapan.co.jp



USACO_VALUES

価値ある知の情報により
知的創造活動をサポート。

あらゆる情報の大海原から真に価値ある情報のみを
知的創造活動のために、いかに効率的に役立てていただけるか。

KNOWLEDGE TRANSFER _____

ユサコは時代の変化を見据え、新たなものにチャレンジするための
知識の移転をサポートします。

≫ USACOの提供するサービス

- 01_ 学術ジャーナル
各種学術情報をトータルに提供しています
- 02_ 学術データベース
研究者のニーズにお応えし、最適な学術情報を確実に提供します
- 03_ ソフトウェア
「EndNote®」がスムーズな論文管理と作成をサポートします
- 04_ システム
電子化された学術情報を管理活用するためのシステムを提供します
- 05_ 医薬系広告代理業務
幅広く医薬に関する情報提供を企画・制作いたします
- 06_ その他のサービス
図書館、研究者支援業務・セミナー業務等をサポートします



<http://www.usaco.co.jp/>